

学会／受賞報告書

日本解剖学会奨励賞受賞

Incitement Award of the Japanese Association of Anatomist

細胞組織分野 准教授

北田 容章

今回、私は、平成22年度日本解剖学会奨励賞を受賞致しましたので、報告致します。

日本解剖学会は1893年に創立された歴史ある学会であり、日本解剖学会奨励賞は学会員のうち解剖学研究の進歩に寄与すること顕著なる研究を発表し、なお、将来の発展を期待し得る研究者個人に対して授与されるもの、と規定されております。

本賞の受賞研究であります「成体組織に存在する幹・前駆細胞の探索と、その利用に関する研究」では、主に3つの方向性で研究を進めて参りました。まず、中枢神経の幹・前駆細胞として脈絡叢上衣細胞及び脊髄中心管周囲上衣細胞の活性を明らかとした事、次に、骨髄間葉系細胞のシュワン細胞や神経細胞への分化能とその臨床応用の可能性を示した事、そして、成体間葉系に存在する多能性幹細胞としてMuse細胞を同定した事、があげられます。次世代の治療法として幹細胞を用いた移植治療が現実味を帯びてきておりますが、私は、前述の生体内に存在する幹・前駆細胞を生体内において利用する、すなわち、欲しい細胞を、欲しい時に、欲しい所へ再配置し治療に結びつける様な、次々世代の治療法を見据えた研究を進めて参りたいと考えております。

本賞の授賞式は第88回日本生理学会大会・第116回日本解剖学会総会・全国学術集会合同大会にて執り行われる予定でしたが、先般の東日本大震災の直後という事もあり、学術集会自体が開催されませんでした。震災により亡くなられた方々のご冥福と、被災された方々が一日も早く以前の生活に戻られる事をお祈り致します。私たちもここで停滞する事無く、研究に邁進していかねばならないと考えております。

受賞研究：

成体組織に存在する幹・前駆細胞の探索と、その利用に関する研究

Exploring and utilization of adult stem/progenitor cells toward regenerative medicine